りたるが被告瀬戸康吉を使嗾したる被告松尾隆喜は何故か此の現場を外して前後の始末を伺ひ居りたると覺れり此時出來りて自己机の前に表れて言ふ樣「あれ丈君は約束して解決に責任を負ふと言ひながら何遍となく使をやつても一つも來ないなんて怪からぬじやないかだが兎に角貸金は棒引して與れてやるから始末書を書け」と言ひたり此時告訴人を氣遣つて後を逐ひ來たりたる告訴人の妻及友人村本順利か告訴人の所在を目指し居るに被告瀬戸康吉は其村本に向ひても「昨日の宮本の手紙は君が書いたのか」と問ひ掛けたるが仝人が「いや僕は知りませんが」と答へたので「それでは誰が書いたのか」と再問〲したるが其儘前記森田松次の件につき始末書を書き入れることを告訴人に迫りたるが此時仝事務室左側中央に居らるゝ村本及告訴人等の背後に在つて兩人を監視し居りたる頭記參考人勞務係某々二名は被告松尾隆喜が何か意味あり